

令和5（2023）年度 第1回社会教育委員会議 議事録

1 日時

令和5（2023）年6月21日（水） 午後2時3分～4時50分

2 場所

柏崎市市民プラザ 2階学習室 201・202

3 出席者

【委員】中村（義）委員（委員長）、長谷川委員（副委員長）、清水委員、中村（聡）委員、小林委員、小玉委員、遠山委員、横田委員、櫻井委員、矢内委員、金子委員、本間委員 [計12名]

【欠席委員】竹内委員 [計1名]

【事務局】窪田文化・生涯学習課長、押見課長代理、小林主査、小岩井主査 [計4名]

4 概要

(1) 開会挨拶、辞令交付、配布資料の確認、会議成立の報告

（事務局から開会挨拶） ※省略

（机上配付による辞令交付及び自己紹介） ※省略

（事務局から資料の確認） ※省略

(2) 講話

「社会教育委員の役割について」

中越教育事務所社会教育課の中村英雄副参事による。

(3) 議題

（事務局から会議成立の報告）

1) 委員長及び副委員長の選任について

運営規程では互選によって選出となっているため委員に意見を聞いたところ、事務局案の提示を求められたため、以下の説明を行った。

事務局	今回は、今年度から委員数が17名から14名に減員となった。また、改選により、7名が新任の委員となっている。以上のことから、経験のある委員から選出したい。 については、事務局案として、委員長に中村（義）委員、副委員長に長谷川委員を提示する。
-----	--

承認され、選任される。

2) 中越地区社会教育委員連絡協議会役員の選出について

事務局	第1回目の役員会議は、6月1日に開催が済んでおり、事務局から中村（義）委員長にお願いし、出席してもらった。今後も協議会役員については、中村（義）委員長にお願いしたい。
-----	---

承認。

3) 令和5年度（2023年度）活動計画について ※資料1に基づき説明

事務局	8月の魚沼市や10月の胎内市の研修は市のバスを用いて参加する。
-----	---------------------------------

承認。

4) 第四次生涯学習推進計画進行管理について ※資料2に基づき説明

第四次柏崎市生涯学習推進計画について、計画年度、基本目標、重点目標、推進の体系を説明した。その後には推進計画の進行管理を行うため実施している、生涯学習推進計画進行管理表について説明した。

事務局	<p>第四次柏崎市生涯学習推進計画には目標達成のための主要施策と評価基準が載っている。</p> <p>生涯学習推進計画進行管理表は計画を基に関係各課がどんな事業を行って、どんな成果を上げてどんな課題があるかを表しているものである。184事業あり、文化・生涯学習課だけではなく図書館や博物館、また子育て支援課など行政で行っているものが載っている。</p> <p>例年は事前に社会教育委員に配って、この進行管理に対して委員から意見を頂くものである。</p> <p>ここにあるのは令和4（2022）年度の評価である。令和3（2021）年度は新型コロナの影響を受けたので令和2（2020）年度も含めEやFの評価が多い。ただ令和4（2022）年度はワクチン接種や規制緩和、令和5（2023）年度は感染症法上の分類が第5類になったため、Fは特別な理由がない限り実施しないことはないと思う。</p> <p>令和4（2022）年度はA評価が146項目、B評価が29項目、C評価が1項目、D評価が1項目、F評価（事業中止）が7項目となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベビープログラムは第1期、第2期の事業ができなかったためC評価 ○サークル同士の交流会はF評価 ○関係者の連携の促進（ネットワークの構築・交流イベント）はF評価 ○なぎさ体験塾（姉妹都市の東村山市などの児童が海の体験をし、柏崎市の児童と交流する事業）は東村山市などから中止の連絡があり
-----	--

	<p>行えなかったのでF評価</p> <p>○なぎさ体験塾における博物館での浜下駄体験もF評価</p> <p>○市民活動支援課の事業は事業実施数を14団体と予定していたところ、実際は4団体しかできなかったためD評価</p>
委員	管理表に記載されている、サークルの交流は今後行う予定か。
事務局	今年度は行う予定。
委員	参加できるのが講師と受講生に限定されていて、社会教育団体として登録しているのに断られた。設定の基準はあるのか。市民全体が出られるようになればよい。公民館の裾野を広げる点で参加者を限定しないようにしてほしい。
事務局	開催の目的を含め確認する。
委員	項目としては7つにF評価がついているが、なぎさ体験塾の例もあって、実際に行えなかったのは事業としては3～4個。事業で評価、という方がよいのでは。
事務局	一つの事業に複数の施策が該当すれば、事業が中止になるとそれら施策の評価を行わなければならないが、確かに実際にできなかった事業は3つである。
委員	同じ事業でも目的によって評価が違うことはありえるのか。
事務局	評価が分かれる可能性もある。けれどもこの計画は第3次生涯学習計画を引き継いでいるため、前回と比べてもおおむね目標が異なっても同じ評価をしている。
委員	7のうち3しかできなかったとしても成果が出ればAになることもあるのか。
委員	評価基準はここに書いてあるが、どういう方向で評価しているか教えてほしい。
事務局	評価基準は各課でまちまちになっているかもしれない。数が少なくてもある程度参加者がいれば組織としてAとしているところもある。事業が実施できて、ある程度参加者がいた場合でもB評価で判断する課もある。当課としては判定基準を各課に示してはいない。
事務局	定量的になっていないので担当者・主管課の主観が入ってしまう。それらを集約して事務局や社会教育委員で評価をすりあわせていく。
委員	資料の事前配付を希望する。
事務局	本年9月には中間評価が出るので事前配付し、適正かどうか審議いただく。

5) 社会教育委員会議自主研修について ※資料3及び4に基づき説明

事務局	社会教育は学校以外の組織教育ですごく範囲が広い。例えば青少
-----	-------------------------------

	<p>年健全育成事業、子ども会、市P連、学校協働事業、子育て、部活動の地域移行などが該当する。</p> <p>そんな中、平成 25 (2013) 年に委員から自主研修の発案があった。詳細及び経過は資料 3 のとおり。平成 28 (2016) ～30 (2018) 年度には提言はなかった。令和元 (2019) 年から 4 年間は新型コロナウイルス感染症の感染拡大や第 4 次柏崎市生涯学習推進計画を決める期間だったので、途切れながらも行っていた。</p> <p>委員改選があったので自主研修を続けてもらいたいと思う。</p> <p>子ども食堂は半田、比角、社会福祉協議会が中心なので子ども食堂の会議に出てもらった。</p> <p>社会教育委員会議の報酬は会議 3 回分で、自主研修は無報酬。強く薦めることはできないが、続けてもらいたいと思う。</p> <p>令和 4 (2022) 年 3 月には個人で調べたテーマを出し合ったところ、委員それぞれが全て違うことを書いてきた。本当はそれを統一して今期行えばよかったが、統一できないくらいそれだけ範囲が広いということでもあるので、手弁当の中、強制できないが続けてほしい。</p>
議長	<p>自主研修について提案があった。社会教育委員は独任制で活動していいと定められていて地方行政とのパイプ作りでもある。前任からも自主研修はやってほしいと言われた。自己だけでなく地域のために研修をやってもよいのではないかと。</p>
委員	<p>そういう理由があれば 2 年の任期の中でやってよいと思う。</p>
委員	<p>「何か」があればやってみたい。町内高齢者と 40～50 代の中堅の間にはつながりががないので地域活動がなくなっていく。</p> <p>社会教育と関連するかわからないけれどもつながりや町内の活性化が図れ、自己の成長につながるのであればやってもよいのではと思う。</p>
委員	<p>経緯を理解した。皆の意見に合わせたい。</p>
委員	<p>歴史関係に取り組んでいる。歴史はつなぐものである。</p> <p>社会教育委員はコミセンから選出されている人が多いので、コミセンをテーマに、どういう活動が世代交流になるだろうか。</p>
議長	<p>自主研修について続けてよいか。</p>
委員多数	<p>異議なし。</p>
議長	<p>続けることに決まった。</p>
事務局	<p>自主研修の実施の承認を頂いた。</p> <p>では何をするか、以下の 5 つを提案する。</p> <p>○若い男性が参加するような講座の提案：公民館講座は平日の昼に開講していると思われがちだが、土日や平日夜もある。内容にもよるかもしれないが、市内の若い男性の受講者が少ない。参加してもらっ</p>

	<p>たり見てもらったりして若い男性を呼べる講座を提案する。</p> <p>○リカレント（学び直し）や市内2大学や市民大学との連携</p> <p>○柏崎方式（公民館とコミセン）の連携：現在はコミセンの主な意識が地域自治になっている。市民活動支援課からの補助金は公民館でないと受けられないのだが、本館と分館との交流がない。中央と西山・高柳でやって、それらを刺激する。また文化・生涯学習課とコミセン職員の意思疎通や連携により交流が生まれる。本館を活用してもらおう。</p> <p>○人材バンクの活用：学んだ知識を活かしてもらうため、地域の先生に登録してもらって、その先生から地域の人が学ぶ事業だが、年間5件受講の問合せが来ればよいくらい、活用が少ない。PRはホームページ、広報4月号、市民プラザ通信で行っている。今年度は講師の更新があったので新たに作った人材バンクの冊子を小中学校とコミセンに配布予定。これまで年数件しか問い合わせがない。</p> <p>○分館の活動</p>
議長	<p>事務局から、提案のあった中から選んでもらいたい。社会教育委員会には独任性があり、個々で研究、調査することもできるが、委員全員で一つのテーマで研修する方向にしたい。</p>
委員	<p>若者をどう引き込むか。自分の団体は若者参画を日々の課題にしている。じよんのび村は社長が昨年変わり、産大生から指摘をもらった。若い学生からどうすれば地域が活発化し、魅力的になるか話を聞いてみたい。</p>
議長	<p>若者参画、大学生から話を聞く。</p> <p>研修は一つか二つのテーマに統一する方向でよいか。</p>
委員多数	<p>よい。</p>
議長	<p>近くの剣野コミセンは高齢サークル、スポーツ団体が利用している。自主研修の活動が地域の活動に結びついていく研修か。若者参加や町内のつながりを持つにはどういう講座を持つとよいだろうか。</p>
委員	<p>地域住民の世代層によっても違いうだろう。</p>
委員	<p>コミセンを、分館として認識している人が地域で少ない。コミセンはどのような問題を抱えているのか。学生がどういう形で問題意識を持っているのか。コミセンとしての生涯学習の在り方なのか。</p>
委員	<p>第三者視点で見てもコミセンで講座を開くとなると動員がかかるくらい集まらない。</p>
議長	<p>地域の活動、コミセン、生涯学習で連携。世代間を超えた中身。公民館（コミセン）連携を自主研修のテーマにどうか。</p>
委員	<p>社会教育委員会にはコミュニティの代表として選出している人もいるがよいか。</p>
委員	<p>若者は若者でつながっている。コミセンは高齢者。マージャンは若</p>

	い人。若者が求めているのをセットできない。若者はコミセンとは別に、興味でつながりを持っている。皆でシェアできる場所が用意されていないから来ない。新しい分野が必要。
議長	<p>コミセンとの連携について、委員の地区のコミセンで参加状況、コミセンの悩み、参加者の悩みを調べる。</p> <p>地域活動や参加者が楽しんでいるかどうかを目を向けてみないか。</p>
委員	大洲は年配多い。小学校5年生の児童が地域のコミセンでお弁当作りなどに参加している。社会教育委員として勉強して提案できたらよいと思う。
委員	児童・職場・親に近いところで探していきたい。保護者が動けば子どもが動く。保護者がコミセンをどう思っているかを聞き取ればよい。
議長	地域をにぎやかにし、楽しくするために。また、社会教育委員は生涯学習推進委員でもある。生涯学習の推進のため、地域活動の把握のためにもコミセン（公民館分館）の活動について研修することとしたい。

6) 社会教育団体への補助金交付について

事務局より資料5に基づき説明し、承認される。

(4) 社会教育登録団体の状況について

令和4年度に191団体から167団体に減った。高齢化で団体を続けられない団体が多くなっている。

(5) 令和5年度新潟県社会教育委員連絡協議会表彰受賞者について

長谷川委員が表彰されることが決まった。

以上